

平成30年度 諫早ワークス事業報告

平成30年度は事業計画に基づき、次のとおり事業を実施した。

□【就労継続支援B型事業】

行動目標1：最低賃金の3分の1以上の工賃の支給

長崎県の最低賃金（平成30年10月6日改定）時給762円の3分の1（254円）及び工賃向上計画（事業所設定）目標272円に対して、278円と目標を達成した。

（平均工賃月額と時間額の推移）

	30年度	29年度	差異
年間売上高①	30,322,470円	25,750,575円	4,348,938円
工賃支払総額②	11,702,400円	10,495,800円	1,206,600円
延べ支払人数③	447人	416人	31人
平均工賃月額④	26,180円	25,230円	950円
総作業時間数⑤	42,092間	39,157時間	2,935時間
平均工賃時間額⑥	278円	268円	10円

○新規利用者の開拓

特別支援学校の実習の受け入れや放課後等デイサービスの利用から、新規利用者の開拓に繋がった。

○営業活動の強化

簡易作業では、大口の封入等の作業ができるよう27年度から営業活動を進めてきた。その結果、単価等が合わず定期的な受注獲得までは繋がらなかったが、大口の封入作業が受注できるようになった。

ウエス事業では、全体的なウエス原料の値上がりが見られ、一部の商品では原料の確保ができなくなり製造中止となった。販売単価の値上げ交渉を進めるも、顧客が離れることは無く、以前と同じように注文はあった。

ポリ加工では、諫早市のゴミ袋加工及び大口の取引業者との単価交渉を行い、諫早市のゴミ袋の単価が0.2円の増、大口の取引業者については9月頃から10%の増となった。

その他、印刷事業においては、特に行政関係からの冊子類印刷の見積依頼や受注が増え、売上に繋がった。また、福祉関係団体からの研修事業の資料印刷の依頼が29年度から引き続き受注できた。

名刺の受注も少しずつ確保している。地域の冊子・チラシ等の印刷も口コミで増え始め、得意先も増えている。その他、30年度から新たに導入した「筋入れ機」により、折り加工が入る厚手のリーフレットの受注につながり、冊子物の品質の向上にもつながった。

施設外就労では、新たな就労先として町内にある障害児者用の治具等を販売する会社にクッションチェア等の検品作業で週に3回ほど、午前3名・午後3名で就労している。

○作業科目の整理

平成30年中の作業科目については現状維持、又は縮小する方向で進めたが、科目の整理までには至っていない。

○利用者の作業技術研修の実施

平成30年度も引き続き、ポリ加工など、元請会社から作業時における管理体制の徹底の指示や製品の品質向上について、厳しい対応を迫られているため、利用者の作業技術の向上と、作業現場での管理体制の強化を図っている。

○新しい利用者への新人教育

平成30年度4月から特別支援学校を卒業した新規利用者を対象に、3名の利用者に対し4月から6月までの3ヶ月間、週2回社会的マナー(SST)プログラムを実施し、社会人としてのマナー教育を行った。

■職員の配置状況

(31年3月末)

職 種	常 勤	非常勤	合 計
管理者	1	0	1
サービス管理責任者	1	0	1
目標工賃達成指導員	1	0	1
生活支援員	2(1)	2(2)	4(3)
職業指導員	2	2	4
調理員	0	2(2)	2(2)
事務員	2(1)	0	2(1)
合 計	9(2)	6(4)	15(6)

() 内は兼務

■健康診断の実施

年1回の健康診断を3回に分けて次のとおり実施した。

実 施 日	検 査 内 容
平成31年1月28日・30日 平成31年2月1日	血液検査、身長、体重、尿検査、視覚、聴覚レントゲン、心電図、血圧、血液型検査

■災害訓練の実施

平成30年度は、次のとおり2回の災害訓練を実施した。

	実施日	訓練内容	消防署の立会	指導事項
第1回	平成30年 10月31日	避難訓練	無	
第2回	平成31年 3月31日	避難訓練 ※地震・災害についての講義	有	声を掛け合いながら避難誘導を行うこと

□【就労移行支援事業】

就労移行支援事業では、平成 30 年 4 月時点で、利用者の登録が 1 名で訓練を行っていたが、7 月より就労継続支援 B 型事業に移行し、そのなかで就労を目指した学習と実践を残しつつ、作業体験の実践を行うプログラムを実施した。これにより事実上、就労移行支援事業については、登録者が 0 名となったが、事業は継続している。

行動目標 2：就労定着支援の充実

一般就職後の定着を図ることを目的とした新規事業「就労定着支援事業」の指定を受け、平成 30 年 7 月から事業を開始しているが、平成 30 年度中は新たな定着支援事業の利用者はいなかった。その一方で、就労移行支援事業を利用されていた利用者 1 名が、トライアル期間を終え、市内の食品加工会社（惣菜製造）に一般就職されている。

また、平成 30 年度も引き続き、就職後 6 か月までは週 1 回程度本人と電話での状況確認を行ったり、月 1 回程度企業を訪問するなどの定着支援を続けている。

その他、余暇活動等がある場合は案内文を送付するなど、参加を促したり、就労移行修了生については、職員との「同窓会」も 29 年度に引き続き実施している。

■職員の配置状況

(30 年 3 月末)

職 種	常 勤	非常勤	合 計
管理者	1 (1)	0	1 (1)
サービス管理責任者	1	0	1
就労支援員	1 (1)	0	1 (1)
生活支援員	0	1	1
職業指導員	1	0	1
合 計	4(2)	1	5(2)

() 内は兼務

□【日中一時支援事業】

行動目標 1：生活上必要な福祉サービスの提供

○受給者証の支給量以外に必要な福祉サービスの提供

支給量の月の上限が、23 日に制限されているため、利用日数が 23 日を超過する利用者については、日中一時支援での利用を促している。主に実費負担の少ない、土曜日等の余暇活動時を日中一時支援での対応とし、参加がしやすいよう配慮している。また、就労移行支援事業から就労をされた方も仕事が休みの日に利用することができるよう、必要な方には日中一時支援の申請を促している。

□【放課後等デイサービス事業】

行動目標 1：放課後等デイサービスの充実

○ビジョントレーニングの導入

今年度から新しいプログラムとして、ビジョントレーニングを導入した。専門の講師から講習を受け利用者向けのトレーニングを行う。(ビジョントレーニングの効果として、視野が広がり、転倒しやすい利用者が転倒する回数が減るといった報告がある)

○家族への情報提供

家庭への情報提供として、毎日持ってきていただくファイルにその日行ったプログラムや様子を記載し、情報提供を行ったり、HP 開設・ブログなどでの活動報告を行っている。

○特別支援学級への支援

7月末に合同説明会に参加し、特別支援学級の先生へ取り組み等を説明し、実習に繋げている。また、放課後等デイサービス事業の利用のため必要なこと等の説明会を実施し、利用者の確保に繋げている。

○活動プログラムの改良（平成 30 年度サマースクール等を開講）

平成 30 年7月から8月にかけて中学生、高校生を対象とした「サマースクール」を開講。特別プログラムを企画し、実施した。(下記参照)

サマースクールの登録人数 15 名、延べ 190 人の利用がある。(27 日間開所)

実施期間	プログラム	内 容
「サマースクール」 ・7月21日 ～8月29日 (27日間)	<ul style="list-style-type: none"> ・工場見学 ・クラフトアート(全3日) ・スイミング(全2日) ・食事を作ろう(全2日) ・まち探検 ・軽体操(前2日) ・宿泊体験 ・パドルボード体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラフトアートでは、ランプ作りを行う。 ・調理実習では、豚汁、アジフライ、饅頭作りやピザ・サンドウィッチ・コロッケ作りにチャレンジした。 ・宿泊訓練では、1泊2日で雲仙市の諏訪の池で宿泊体験を行う ・軽運動では、インストラクターの指導のもと、柔軟体操を行う。 ・パドルボード体験ではインストラクターの指導のもと、南島原市の前浜海水浴場でパドルボードを体験した。
延べ利用者数 190 人		

行動目標 2：学校との連携強化

○家族との面談の実施

放課後等デイサービス事業を利用の利用者について、ご家族、本人及び支援を行っている各事業所の担当職員間で面談を実施。モニタリング会議を行った。

○学校への参観と担当教員との情報の共有化

放課後等デイサービス事業を利用の利用者について、特別支援学校の担当教員と担当者会議を実施、情報の共有を行った。

【平成 30 年度 各事業の入退所（契約）状況】

事業の種類	定員	30年度当初 契約者数	新規利用	退所者	30年度末 契約者数
就労継続支援B型事業	30人	36人	4人	3人	37人
就労移行支援事業	6人	1人	0人	1人	0人
日中一時支援事業	10人	25人	0人	-	25人
放課後等デイサービス事業	10人	11人	7人	5人	13人

就労継続支援B型事業では、放課後等デイサービスの利用からB型利用となった方1名と、平成29年度の特別支援実習生1名（平成30年4月利用開始）、放課後等デイサービス利用からの利用者1名（平成31年3月利用開始）計3名が新規利用となる。

退所者については3名となり、法人内のグループホームへ1名の移行と、家庭のご都合で他事業所へ移動された方が2名となった。

就労移行支援事業では7月より1名、当事業所の就労継続支援B型事業へ移行となった。

日中一時支援については、利用上限の月23日利用を超える方や、一般就労をされている方に支給申請を促し、主に定例の行事や余暇活動など、利用を呼びかけている。

■ヒヤリハット事項

平成30年度は、次のとおりヒヤリハットが発生した。

発生日	ヒヤリハット内容	対応・改善内容
4月7日	送迎担当者が利用者総数を記入間違いし、弁当発注数も間違い利用者の昼食が不足した。	送迎者一人で人数確認だけでなく、もう一人確認してもらい間違いを減らすようにする。
6月5日	車椅子の利用者が掃除終了後、食堂へ移動する際スロープで転倒する。	通所時にストッパー等が所定の位置にあるか確認する。
6月5日	利用者が一方的に他の利用者を叩いていた際に、叩いた利用者には家庭に報告をしているが、叩かれた利用者には報告をせず、家庭から連絡が入る	双方の家庭に連絡をいれ詳細をお知らせする。
7月10日	施設外就労引率の際、施設の携帯を持参し、そのまま自宅へ持ち帰ってしまった。	施設に帰ったら携帯を元の場所に返却をする。
8月18日	調理実習で揚げ物をする際、利用者が具を持った指先が油に触れ、後日水泡ができ通院する。	揚げ物等の危険が伴う時は、職員が付くべきだった。事故の予防と対策をもっと考えておくべきだった。
8月22日	ゴミ袋10枚中すべてが熱圧縮されてなく底抜け製品があり購入者から市役所へ苦情がある。	いつの加工したものかわかるように加工印をつけ、発生した場合追跡できるようにする。検品作業の徹底をはかる。
8月31日	作業内容に対して受け入れきれず、不安定になり食堂でバッグを投げ、その後作業場のガラスを叩き割る。	本人の状況について家庭と連携を取り、本人が落ち着いて取り組めるように行っていく。
9月11日	同じ苗字の利用者の請求書の渡し間違い。	各家庭とGHに連絡し、請求書を持ってきてもらい、入れ替える。
10月1日	月末に次月の弁当発注の用紙をFAXしていなく、施設外就労場所へお弁当が届かなかった。	施設内の弁当発注表と一緒に、施設外弁当発注書と一緒にFAXを流し、再度副所長に報告をする。

10月31日	10月支給工賃計算時に作業時間の入力ミスがあり工賃に差額が生じる	現在、作業時間を入力する際、手入力をしていましたが自動反映する計算式を作成し、入力ミスを防ぐ。また、確認する際は時間をかけチェックを入れながら確認をする。
11月23日	利用者の方が乗車中に車両が動く。利用者には怪我はない。	停車時は、サイドブレーキが十分引いてあるか確認。ギアをニュートラルではなく、ローまたは、バックに入れておくようにする。
12月3日	印刷の見積もり依頼を受け、見積書を提出後時間が経過し、回答が無いものを納品してしまう。	細やかな確認と、連絡調整を行うと共に、担当者以外で相互確認とチェック体制の強化を図る。
12月10日	原反を倉庫から作業棟へ搬入する際にパレットの段差に引っかかり転倒。右足の甲を強打する。	パレットを敷くなら同じ高さのものを私用するようにする。
12月21日	利用者から欠席の連絡が入り、事務所のホワイトボードへは記入したが、調理員に連絡を入れていなく食事が出来上がってしまった。	マニュアル化と、職員間による連絡等の強化。
12月26日	コンテナを洗浄時に、沢山積んであったコンテナを1度に持っていきこうと志、コンテナが崩れ本人の方にあたってしまう。	1度に持っていきこうとする前に気づき行く前に行動を止める。男性の利用者に手伝いをお願いする。
平成31年1月8日	汚れた作業着を持って帰らせた際、納得がいかに送迎バスの中で不安定になられ送迎バスを降車できず、ご家族にロータリーまで迎えに来てもらう。	本人が納得行く上で私物の持ち帰りをさせる。
2月2日	利用記録の漏れがあり、請求漏れが生じる。	利用日報を使用し、送迎担当職員が記入を行い、送迎確認し、その後複数の職員で日報の確認を行う。

■ 苦情報告事項

発生日	苦情報告内容	対応・改善内容
30.12	長崎県障害者共同受注センターより印刷の見積依頼があった得意先に対し、当事業所が受注していない商品を送付したことによる苦情	長崎県障害者共同受注センター様にお詫びをするともに、商品を送付した得意先については、先方の意向により、商品を受けていただいた。 改善内容としては、見積依頼があった場合は複数人で対応するようにし、経過についても随時、報告を行うようにしている。

■ 実習生等の受け入れ

平成30年度は、次のとおり実習生等の受け入れを行った。

(1) 特別支援学校実習生

	受入期間	学校名	人数
1	平成30年6月11日～29日	虹の原特別支援学校	1人
2	平成30年6月19日	諫早特別支援学校	1人
3	平成30年11月19日～22日	諫早特別支援学校	1人
4	平成31年1月28日～2月8日	鶴南特別支援学校	1人
合 計			4人

(2) 社会福祉体験実習生

	受入期間	学校名	人数
1	平成30年11月19日～22日	活水女子大学	4人
2	平成30年12月10日～22日	長崎女子短期大学	1人
3	平成31年1月15日～18日	活水女子大学	4人
4	平成31年1月28日～2月1日	活水女子大学	4人
5	平成31年2月25日～3月1日	活水女子大学	4人
6	平成31年3月4日～3月16日	長崎女子短期大学	1人
合 計			20人

■ 主な行事等実施状況

実施日	実施場所	行事名	行事内容
平成 30 年 4月 7日	諫早市	諫早ワークス育成会総会 レクリエーション	育成会総会后目代町公民館にて室内 レクリエーション
4月 21日	諫早市	歓迎遠足	新しい利用者との交流を深めるため・体づくり のため諫早総合運動公園へ遠足・レクリエー ションを行う
5月 20日	諫早市	第 40 回ゆうあいスポーツ大会	なごみの里運動公園で県下の事業所合同運動会
5月 27日	長崎市	第 16 回長崎県障害者スポーツ大会	ボウリング、陸上競技に出場
6月 22日	長崎市	余暇活動	ペンギン水族館見学
6月 23日	諫早市	わくわくフェスタ	諫早ワークス内で日頃の想い等を伝えお祭り を行う
7月 7日	大村市	第 39 回施設利用者球技大会	ティーボールとグランドゴルフに出場 グランドゴルフでは長崎県代表に選抜
8月 11日	諫早市	第 39 回施設利用者球技大会祝賀会	施設利用者球技大会の成績を報告する昼食会
9月 1日	南島原市	ノーブル 20 周年祭り	ノーブル 20 周年祭りへ参加
9月 16日	諫早市	のんのご祭り見学	地域行事。買い物学習などを行う
10月 13日	諫早市	つかさ会大運動会	飯森体育館にて運動会を行う
11月 17日	諫早市	第 23 回ふれあいロードレース大会	長崎県立総合運動公園補助陸上競技場にて 行われるマラソン大会
11月 17日	佐賀県	九州地区利用者球技大会	グランドゴルフの部に出場。結果 6 位
12月 22日	諫早市	クリスマス会	目代町公民館にてクリスマスの出し物やゲーム 等を実施
平成 31 年 1月 12日	諫早市	成人のつどい	センリユウにて成人者 1 名を利用者、ご家族 と職員で祝う
2月 2日	諫早市	諫早市ボウリング大会	諫早市主催のボウリング大会に参加
2月 9日	長崎市	ランタンフェスタ見学	長崎ランタンフェスタの見学
3月 30日	諫早市	育成会ボーリング大会・社会学習	諫早ワークス育成会杯ボーリング大会に参加、 その後、カステラランドで工場見学を行う
7月 ～10月	諫早市	スイミング (月 1 回)	
5月 ～12月	諫早市	サンシャインスポーツ教室 (月 1 回)	

■ 主な研修会への参加状況

開催日	開催地	研修会名	研修内容	参加職種
平成 30 年 6 月 7 日	東京都	第 9 回日本セルフセンター 研究大会	障害者就労支援施策の動向、工賃 向上を続けている事業所の実践 報告、高工賃を達成するための取 組	管理者 1 名
7 月 2 日 ～3 日	東京都	平成 30 年度全国知的障害関係 施設長等会議	社会福祉法人制度改革や平成 30 年度報酬改定、障害保健福祉施策 の動向、今後の障害福祉サービス を考えるシンポジウム、障がい のある子どもの最善の利益を考 える、地域共生社会の実現を担う 就労支援事業所の役割を考える	管理者 1 名 事務長 1 名
7 月 12 日 ～13 日	青森県 青森市	平成 30 年度全国社会就労 センター総合研究大会	障害保健福祉施策の動向、工賃向 上・受注拡大のためのシンポジウ ム、ユニバーサル農業の実践に見 る農福連携の可能性について、A 型事業所における福祉の強みを 生かした高賃金の実現と生活支 援の充実	管理者 1 名
8 月 19 日	佐世保市	第 38 回知的障がい関係合同 研修会（夏季セミナー）	強度行動障害への対応	管理者 1 名 サービス管理責任者 1 名 生活支援員 2 名 職業指導員 3 名 事務員 1 名
8 月 29 日	諫早市	働く喜びサポート事業研修会	農福連携について	管理者 1 名 職業指導員 1 名
8 月 31 日	大村市	平成 30 年度 給食施設栄養・衛生 管理研修会	県民の食を支える給食施設の役 割について	生活支援員 1 名
9 月 8 日	東京都	第 9 回障害者就労支援施設の食を 通じて新しいビジネスネットワ ークを考える実践研修会	食モノネットワークのあり方につ いて、農福連携を考える	管理者 1 名
11 月 1 日 ～2 日	福岡県 福岡市	平成 30 年度九州社会就労 センター研究大会	平成 30 年報酬改定と今後につ いて、就労移行事業と就労定着事 業の現状と課題、生産活動・日中活 動・生活支援の充実に向けた取組	管理者 1 名 職業指導員 1 名 生活支援員 1 名
11 月 21 日 ～22 日	沖縄県 那覇市	平成 30 年度第 58 回九州地区 知的障害関係施設長等研究大会	障害保健福祉の動向、報酬改定に 伴う課題や新たな展開に向けた 障害福祉のあり方	管理者 1 名
平成 31 年 1 月 15 日 ～16 日	東京都	平成 30 年度リーダー養成ゼミナ ール修了生フォローアップ研修会	障害福祉制度の動向について、各 地域での実践報告、工賃向上・受 注拡大特別委員会の取組報告	管理者 1 名
1 月 21 日 ～22 日	香川県 高松市	第 10 回障害者就労支援施設の食 を通じて新しいビジネスネットワ ークを考える実践研修会	農福連携事業についての最新情 勢、食モノネットワークの今後の あり方について	管理者 1 名
1 月 24 日	諫早市	地域生活定着支援センター協議会 九州ブロック機関研修会	行政報告、明石市における更生支 援の取組み、アウトリーチと重層 的な支援ネットワークを活用し た多面的なアプローチ	管理者 1 名
1 月 30 日	長崎市	就労移行支援事業事業所等職員の スキルアップセミナー	障害者の就労移行・就労定着に 向けた支援について 障害者雇用について	管理者 1 名 職業指導員 1 名 生活支援員 1 名
2 月 18 日 ～19 日	東京都	全国生産活動・就労支援部会職員 研修会	障害保健福祉施策の動向、改めて 考えよう障がいのある方が働く ということ、働く場の開拓と工賃 向上のための様々な工夫、就労定 着支援事業の本質、農福連携の取 組み、GAP 認証について	管理者 1 名

2月27日 ～28日	東京都	平成30年度(第35回) 全国社会就労センター長研修会	障害者就労支援の現状・課題とセ ルブ協の対応、障害福祉施策の動 向、平成30年度報酬改定影響調 査の結果速報と各事業の現状、工 賃向上・受注拡大実現特別委員会 の取組み、障害者が働くために必 要な合理的配慮とは、福祉業界に おける求職者の傾向と人材確保 のヒント	管理者1名
3月7日	長崎市	工賃向上セミナー	工賃向上アドバイザー派遣事業 のモデル事業実践報告 工賃向上のための環境整備 工程づくりのポイント	管理者1名 職業指導員1名 目標工賃達成指導員1名
3月7日	大村市	長崎県知的障がい者福祉協会 合同研修会	意思決定支援について考える(ワ ールドカフェ方式)	サービス管理責任者1名 生活支援員3名